

LECCIÓN DE ESPAÑOL

スペイン語講座(II) 目的の代名詞について

スペイン語を習い始めた人がぶつかる壁に人称代名詞があるのではないのでしょうか?人称代名詞とは、簡単に言うと『私』『君』『彼/彼女』などのことです。厄介なのは、主語の場合や目的語の場合で変化することです。『彼』を例にとると、él(彼が)→le(彼に)→lo(彼を)...などと変化します。特に目的語は「間接目的語」(~に)と「直接目的語」(~を)を区別しないとはいけません。今回は特に目的語を復習してみましょう。まずは次の表からです。

(A) 標準システム		間接目的語 (~に)	直接目的語 (~を)
1 人称単数		me	
2 人称単数		te	
3 人称 単数	男性	le (se)	lo
	女性		la
	中性		lo
1 人称複数		nos	
2 人称複数		os	
3 人称 複数	男性	les (se)	los
	女性		las

スペイン語では主語はよく省略されるのですが、目的語はあまり省略しません。さて、用法ですが、

Regalo este CD **a Juan**. → **Le** regalo este CD.

(私は**ファン**にこのCDをプレゼントする) → (私は**彼**にこのCDをプレゼントする)

Esta tarde visito **a Juan**. → Esta tarde **lo** visito.

(午後私は**ファン**を訪ねる。) → (午後私は**彼**を訪ねる。)

このあたりは大変わかりやすいと思いますが、以下の文ではどうでしょう?

Anoche llamé **a María**. (昨夜私は**マリア**に電話をした)

→ Anoche **le** llamé か **la** llamé かどっち?

「彼女に電話をする」だから **le** に決まっていると思った人いませんか? llamar は「~に電話をする」という意味でよく使いますがもともとは「~を呼ぶ」の意味です。llamar por teléfono つまり、「電話で~を呼ぶ」でpor teléfonoは省略されることが多いのです。**la** が正解ですね。

もっともスペイン人たちも迷うことがあったのか、**Lo** conozco, **Le** conozco (私は**彼**を知っている)とどちらでも間違いではないとされています。ただし、この現象は男性の場合のみで **La** conozco (**彼女**を知っている)の代わりには Le conozcoとは言いません。また **lo** の代わりに **le** が使えるのは、人を指しているときのみで、物のときには使いません。この用法は歴史的にも古い現象で、スペイン中部から北部で見られます(下の表B)。その他のスペインの地方やラテンアメリカでは、**Lo** conozcoが普通です(表A)。Castillaの真ん中、Valladolidに住んでいた筆者はB派なので、**Lo** conozcoを聞くとどこかコソバユクになります。

仲井邦佳

立命館大学産業社会学部教授・スペイン語部会長京都イスパニア学研究会会長。

専門はスペイン語学。

著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(第三書房)、『中級スペイン語—文法と演習—』(同学社)などがある。



Kuniyoshi Nakai

(B)システムの利点は、「人」「物」「女性(人・物)」が区別できることです。逆に欠点は「直接」「間接」の区別がわかりにくくなることです。そのためかCastilla地方などでは、A ella **la** gusta la música (彼女は音楽が好きだ)という文を聞くことがあります。標準語からすると間違いなのですが、「間接目的語」と「直接目的語」を混同している証拠かもしれません。何しろ1人称と2人称では「間接」と「直接」の区別がないのですから、3人称で混同するのも無理はありません。

結局、日本人の初心者ならあまり気にしないでどンドン話したほうがよさそうです。頭が混乱しそうな人は、(B)を忘れて、まずは(A)を覚えましょう。

中級に達した人は、ぜひlo~leに注意してあなたの先生の会話を聞いてみましょう。さて、どこの国、地域の出身でしょうか?

(B) スペイン北部システム		間接目的語 (~に)	直接目的語 (~を)
1 人称単数		me	
2 人称単数		te	
3 人称 単数	男性	le (se)	le 人 / lo 物
	女性		la
	中性		lo
1 人称複数		nos	
2 人称複数		os	
3 人称 複数	男性	les (se)	los
	女性		las

さて次は、間接目的語の **le / les** の代わりに使われる **se** について考えてみましょう。

Yo te presto este libro. (私は君にこの本を貸す) (目的語が2つ現れるときは、「～に」>「～を」の順番です)

上記の **este libro** を代名詞にしたとします。→ Yo te **lo** presto. (私は君に**それを**貸す)

貸す相手を変えてみましょう。→ *Yo **le** lo presto. (私は**彼に**それを貸す) (*印は、実際に使わない文であることを意味します)

この瞬間、同じ3人称同士、つまり **le** と **lo** の衝突が起こります。

この時に **le** の方が自動的に **se** と変化します。→ Yo **se** lo presto. (私は**彼に**それを貸す)

変化前	→	変化後	変化前	→	変化後
le lo	→	se lo	les lo	→	se lo
le los	→	se los	les los	→	se los
le la	→	se la	les la	→	se la
le las	→	se las	les las	→	se las

まとめると、これが実際に使われる文です。**le** が **se** に代わるのは音声的な理由です。日本語の例でたとえてみましょう。日本語の数の数え方は複雑で外国人の学習者を悩ませます。紙などは、「1枚、2枚、3枚…」、手紙は「1通、2通、3通…」と数えます。そこで、ニンジンはどうでしょう。わかりやすくするためにローマ字で書きます。

1-pon, 2-hon, 3-bon ... なんと-honが自動的に-ponや-bonに変わりましたね。つまり、**se** は **le / les** と全く同じものでありながら、決まった条件で自動的に現れる変種なのです。ここで決まった条件とは、後ろに**lo / los / la / las**が来ることです。おそらくネイティブの人は無意識に変換しているはずですが、みなさんが頭で考えなくても、「1匹、2匹、3匹…」と言えるのと同じことですね。

最後にこの **se** はあくまで **le, les** の変種であって、決して再帰の **se** と混同してはなりません。発音も綴りも全く同じなのですが、語源と働きは違うのです。

Ellos **se** lavan las manos antes de comer. (彼らは食事の前に手を洗う)

Ella **se** llama Eva. (彼女の名前はエバです ← 彼女は自分をエバと呼ぶ)

この場合の **se** は、「～自分自身を／に」を指す再帰の **se** です。再帰の代名詞は右表(C)のようになります。再帰の代名詞はなんとも単純なものになりました。1人称と2人称は通常の代名詞と同じです。そして、3人称は、男性も女性も、単数も複数も、間接目的も直接目的も、全て **se** という豪快な結果になりました。再帰代名詞については、話し始めると長くなるので今回はこれ以上深入りしないことにしましょう。

(C) 再帰の目的語	間接目的語 (~に)	直接目的語 (~を)
1人称単数		me
2人称単数		te
3人称単数	男性	se
	女性	
	中性	
1人称単数		nos
2人称単数		os
3人称単数	男性	se
	女性	

ところでこれらの目的語の人称代名詞ですが、決して強く読まないことに注意してください。

日本人の学習者は強く読んでしまうことが多いのです。また、これらは必ず動詞の近くに置かれますので、離さずに一緒に発音しましょう。原則としては、動詞の前に置きます。

Te lo prometo. (君にそれを約束するよ)「テ・ロ・プロメート」と離さないで、「テロプロ**メ**ート」と一気に、そして強く読むのは「メー」の一ヶ所であることに注意です。

ただし、動詞の後ろにくっ付ける場合があります。それは、(1) 不定詞、(2) 現在分詞、(3) 肯定命令、の3つのケースです。

(1) ¿**Me lo** puedes repetir? (それを私に繰り返してくれる?) → ¿Puedes repetir**me lo**?

(2) Otra vez **te lo** estoy diciendo. (再度君にそのことを言っているんだ) → Otra vez estoy diciéndo**te lo**.

(3) ¡Cuéntame**lo** todo! (全てを私に話さない!)

最後の(3)の肯定命令の場合は、必ず動詞の後ろにつけないといけません。一方、(1)と(2)の場合は前に置いても、後ろに置いて(その場合はスペースを空けないで綴る)もどちらでも可能です。前でも後ろでも意味は全く同じですが、前に置く方が少し口語的な感じがします。

スペイン語は本当に奥が深いですね。時間が来たようなので今回はこの辺で。¡Hasta la vista!

(立命館大学 産業社会学部教授 仲井邦佳)

スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミス避ける語感を習得。課題文139の日本語・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。



〒162-0805 東京都新宿区矢来町106
Tel. (03)3267-8531 <http://www.daisan-shobo.co.jp>

第三書房